

■胆振管内の状況及び学力向上策（小学校数:61校、児童数:2650人）（中学校数:42校、生徒数:2550人）

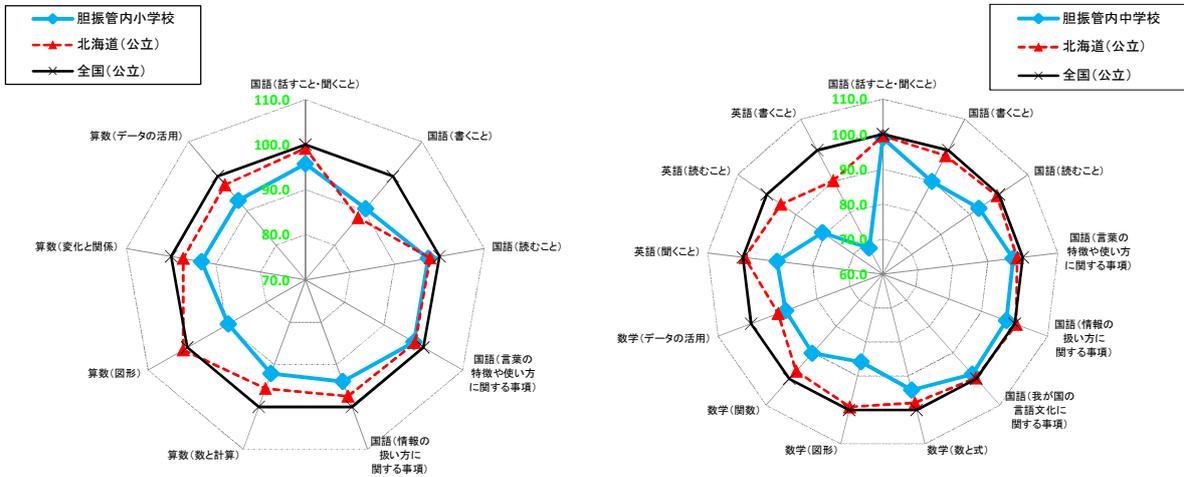
【教科全体の状況】

平均正答率	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校英語
胆振管内	65[64.8]	58[57.5]	67[67.0]	47[46.5]	38[37.9]
全国	67[67.2]	63[62.5]	70[69.8]	51[51.0]	46[45.6]

小学校

中学校

〔レーダーチャート〕教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



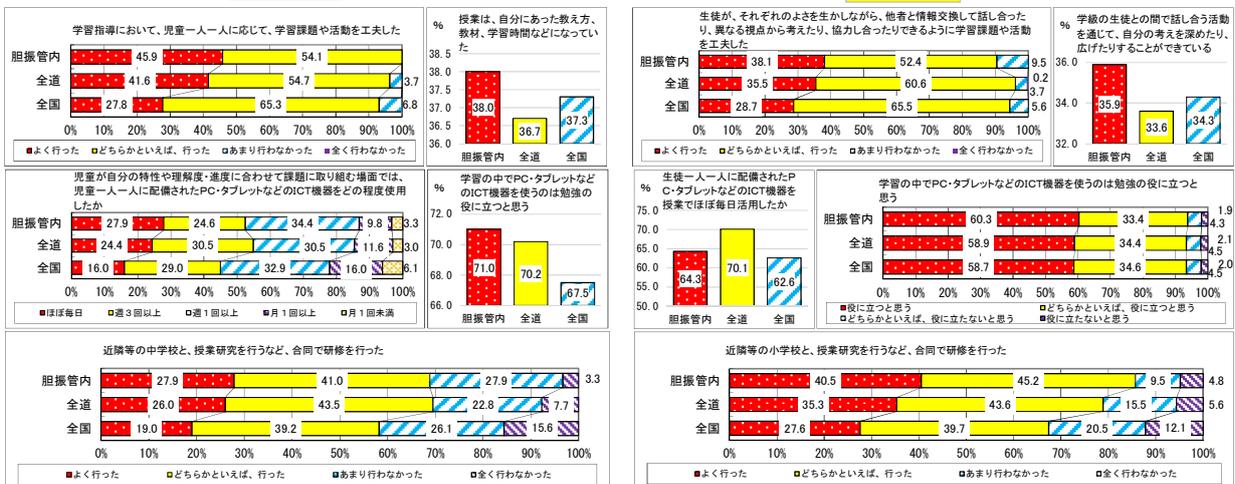
〔平均正答率の推移〕管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率の経年変化



【質問紙の状況】

小学校

中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
管内の多くの小学校において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫するなど、授業改善を図ったことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	管内の多くの中学校において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫するなど、授業改善を図ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で積極的に使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	管内の多くの中学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
管内の多くの小・中学校において、小中連携した学力向上の取組を推進したことにより、近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修をよく行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。	

【胆振管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

胆振管内における学力向上の取組

1. 管内教育の重点(学力)

- 学力向上に向けた各学校の組織的な取組の徹底及び学校間の連携強化
- 資質・能力の育成に資する主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善
- 家庭と連携した生活習慣の確立に向けた取組の推進

2. 具体的な改善策

- 身に付けさせたい資質・能力を育成・活用・発揮できる授業及び授業以外の場における学びの工夫
- 切れ目のない一貫した指導や支援を受けられる体制や学びの場の充実
- ICTの日常的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実
- 情報活用能力の育成に向けた教科等横断的な教育課程の編成

- ・管内校長会・教頭会の理事会等で、全教職員で検証改善サイクルの取組を進めるよう、指導助言
- ・「いぶりoneシート」に基づく、指導主事とミドルリーダー等との協議を実施
- ・各種研修会等において小・中・高を一体的に捉えた学力向上(特に自己調整力の育成)に向けた取組に係る情報提供
- ・小・中・高を一体的に捉えた学力向上を推進する管内モデルを確立

3. 令和5年度(2023年度)の取組

